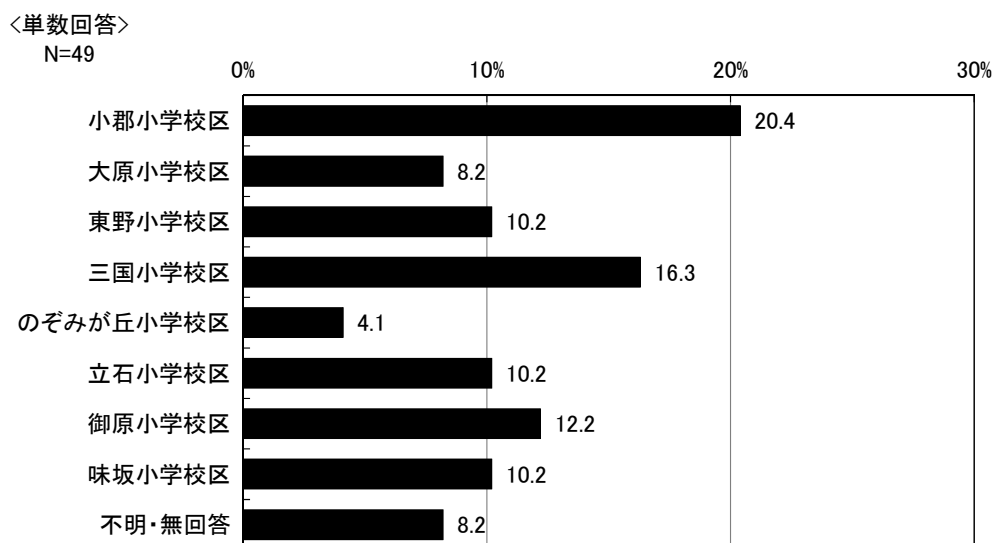


小郡市地域福祉計画 分野別課題調査(区長用)結果報告書

I 調査概要

調査対象 : 区長
 調査期間 : 平成 26 年 2 月 12 日～3 月 7 日
 調査方法 : 調査票の配布・回収
 回収率 : 調査票配布数 60 票、回収数 49 票、回収率 81.7%

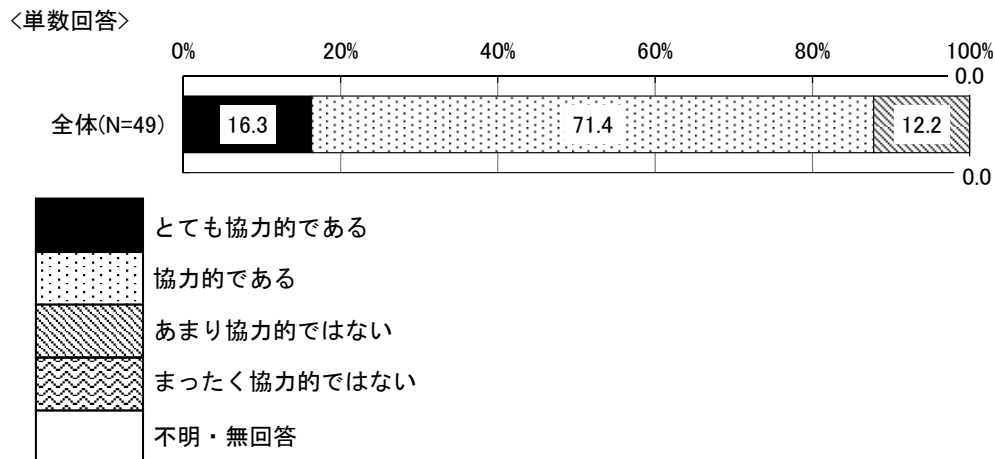
回答された方が区長を務める小学校区



Ⅱ 調査結果

1. 区長を務める地区での地域活動や近所づきあいの様子についておたずねします。

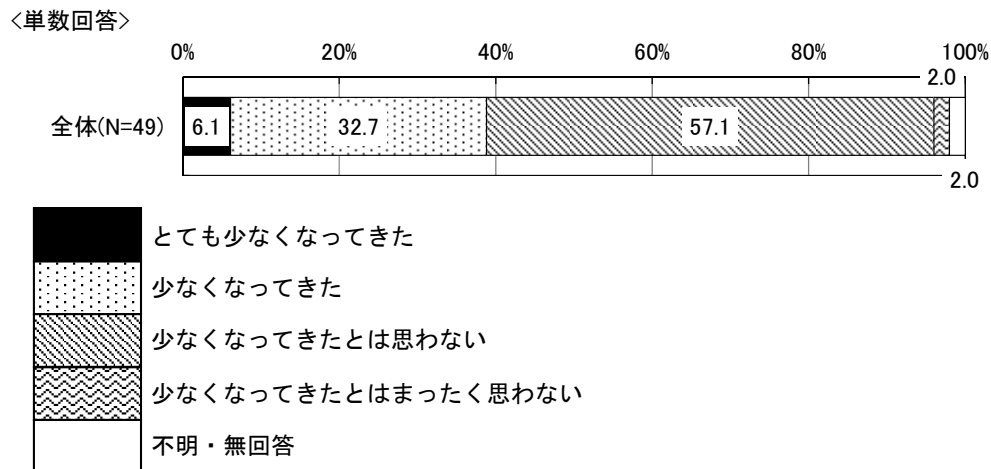
① 地区の皆さんは、地区での行事や地域活動に対して協力的ですか、もしくはあまり協力的ではありませんか。(ひとつだけ○)



「3 あまり協力的ではない」「4 まったく協力的ではない」に○をつけた方におたずねします、そこにはどのような理由があると思いますか。

- もともと自治会への参加意識は希薄。地区行事への魅力を感じていない。
- 隣組によっては、高齢者（同居者が少ない）が多くて、動きが少なくなっている。横のつながりが希薄になってきているのではないかな。
- 当区は団地で、寄合い所帯の集団である。したがって、郷土愛が極めて希薄で、対人に対して排他的、閉鎖的、保守的な住民が多いので、地域活動に関心興味を示さない。
- 興味関心がない。
- 会社勤めのため。
- 高齢化のため。

② 近所づきあいが少なくなってきたと言われますが、あなたの地区ではどうですか。(ひとつだけ○)



「1 とても少なくなってきた」「2 少なくなってきた」に○をつけた方におたずねします。
そこにはどのような理由があると思いますか。

- 限定された人との近所づきあいはあるものの、全般的には少ない。近所づきあいするための共通の接点がない。
- 核家族が多くなっており、夫婦のみの家族、独居が増え、引きこもりがみられ、また、賃貸集合住宅居住が大変な勢いで増加、隣保精神の欠落が原因と思われる。
- 定年延長になり、勤務年齢が延びた。夫婦共稼ぎをする家庭の比率が増加した。子どもが少なくなり、交流のきっかけが減少した。個人主義の傾向が増した。
- 個人本意であり、共助精神欠如。
- 10 数年前までは、毎年地元集落で敬老会、元日の互祝会を実施していたが、女性陣から世話が大変ということで廃止した。その影響もあり、お互いが接触する機会が減ったため。
- お互いが忙しすぎる（年をとっても働いている）。
- 隣同士で話をするのが少なくなった。
- 家にこもりがちである（高齢者）。
- 区内の住民が高齢化してきたために近所づきあいが少なくなってきた。
- 高齢化のため。
- 高齢化、マンション・アパートの増加。
- 日本全体の問題で、核家族、個人の価値観の多様化、隔絶が進行していく社会への傾斜を別に気にしない世代の人たちが増加している背景があると思います。
- 家の概念の喪失と、個人的人権の重要視。
- ふれあいネットワークで消防担当者と対象家庭をまわったとき、近所づきあいがある人は2人ぐらいだった。当区は他所からの移住者なので、近所づきあいが元々少なく、

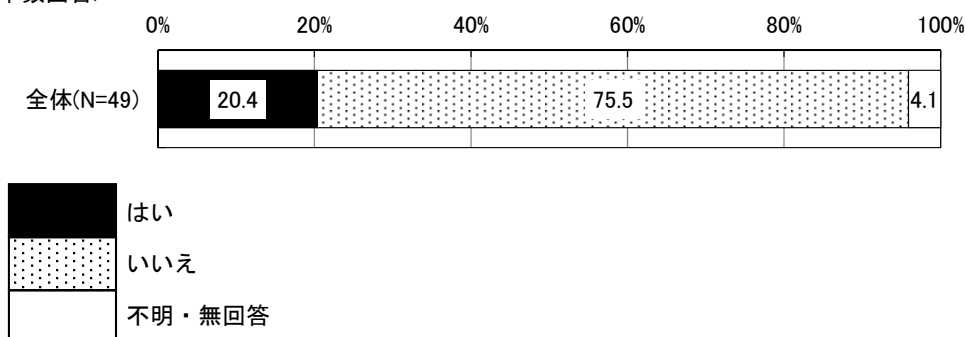
地区役員選出の際もヨコの情報がなく、苦労がある。

- 昔と今では、市外に勤める人、女性も勤めに出ることも多く、あとには高齢者のみ。高齢者は家の中から出てこない。あまり人のことには関心がない。
- かつて、我々を支えた「地縁」「血縁」「社会の縁」という3つの社会基盤が、超高齢化時代を迎えて崩れて、「無縁社会」と言われる時代になりつつあるのが主要因。当区高齢化率 39.1%。

2. 区長を務める地区での福祉の問題や福祉に関するお考えについておたずねします。

① 福祉の問題に関わることで、相談が持ち込まれたり、頭を悩ませていることがありますか。(ひとつだけ○)

<単数回答>



「1 はい」に○をつけた方におたずねします。そこにはどのようなことですか。

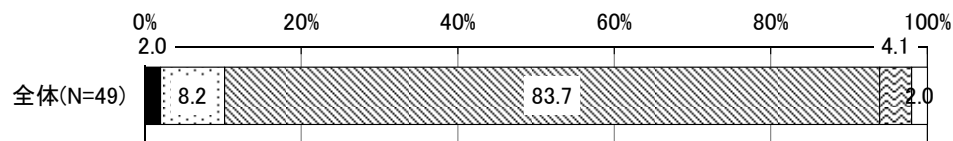
- のぞみが丘小学校区内に保育所がまったくなく不便。高齢者の交通の交通手段が少なく、市役所へ行くにしても不便。ふれあい館三国でさらにサービス内容を増やしてもらいたい。
- 人的、精神的、さらには妬み（生活保護）、認知症等。
- 福祉の問題は、民生委員がしっかり務めていただいております。
- 本来個人で解決専決問題を安易に地域にその問題解決を求めてくる人に困惑します。民生委員もこれらの対応に苦慮しています。
- ふれあいネットワークで、内規か裏の則りか分かりませんが、70 歳以上の独居者および 75 歳以上の 2 人暮らしを対象に助成金が出ていて、本来の趣旨のネットワークにかからない人が出てきている。
- 民生委員から、高齢独居者とのつきあい方やトラブル時の対処法について、相談を受けた。
- 高齢者が多くなり、親の介護に帰郷する人が中高年で出てきたが、職を辞し、親の年金で生活し、介護するようになると、親が亡くなった後、生活が成り立たない人がでてくる。また、中高年なので、近所づきあいがなく、中高年の引きこもりが出てきている。
- 現在、民生委員に任せている状態である。区長に住民から相談があった時、民生委員

と相談して対処している。今後は、要援護者のピックアップ、必要な情報等を収集し、防犯、防災活動と合わせて活動していきたいと考えている。

- 高齢者が増え、また認知症や老々介護、ひとり暮らしが多く、徘徊、隣近所への迷惑に対応することが多く、手配がまわりません。限界を感じています。
- 親子、夫婦間におけるトラブル等、家庭内のプライベートに対して、我々素人が内政干渉すると逆に問題をこじらせる恐れがあるので、対応に苦慮している。

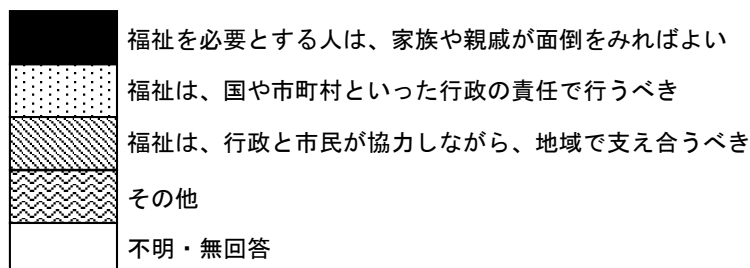
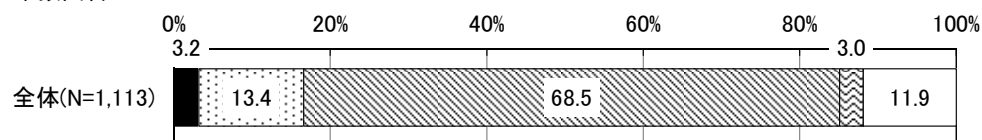
②「福祉」のあり方は、どのようなべきだと思いますか。(ひとつだけ○)

＜単数回答＞



参考：市民意識調査での同じ設問での結果

＜単数回答＞



その他：

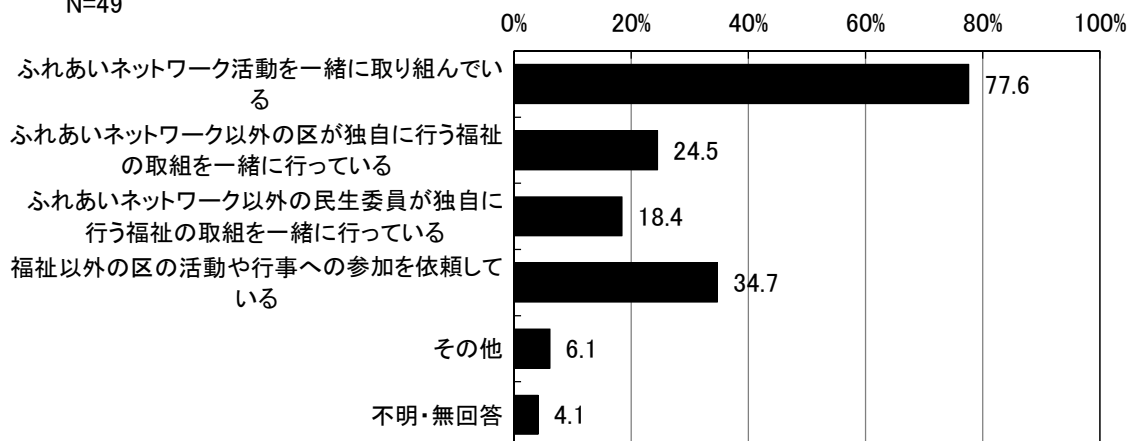
- 基本的には家族や親戚。
- 基本は「福祉は、国や市町村といった行政の責任で行うべき」。末端は地域住民が協力し支え合う。
- 福祉は、家族、行政、地域で行うべき、どこかが特定してはできないと思う。
- 地域そのものがない。
- これだけ高齢者が多くなると、「福祉は、行政と市民が協力しながら、地域で支え合うべき」は不可能。発想の転換が必要。

3. 区長を務める地区での福祉活動の取り組みの様子についておたずねします。

① 区を担当する民生委員とは、どのような連携がありますか。(あてはまるものすべてに○)

<複数回答>

N=49



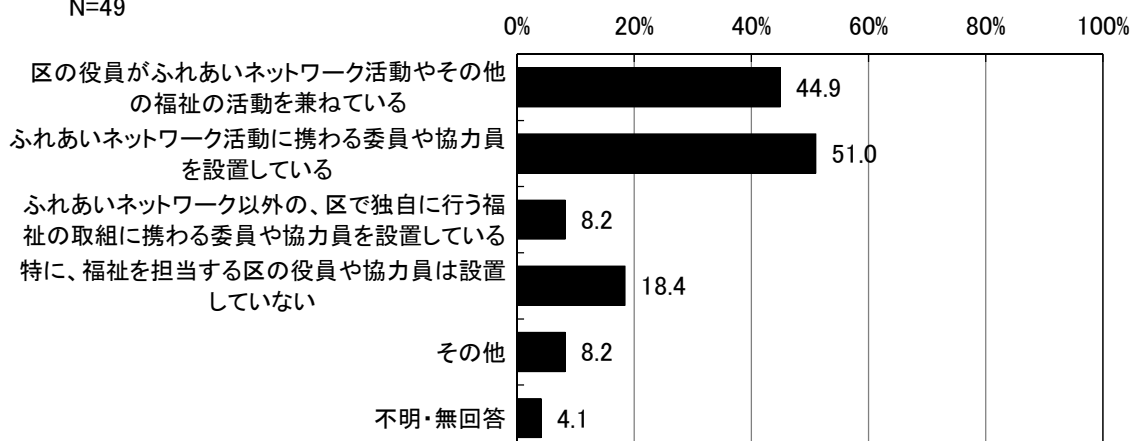
その他：

- うまく機能していない。自分たちの意見だけを通そうとする。民生委員の立場が明確でなく、無給のボランティアで、どこまでできるのか。福祉以外の活動や行事への参加はおかしい。
- 健康体操などと一緒に取り組んでいる。
- 老人クラブとの連携が必要なものを行政は消極的。

② 区のなかに、見守り活動など福祉の取り組みを行う役員や協力員(民生委員を除いて)を設置していますか。(あてはまるものすべてに○)

<複数回答>

N=49



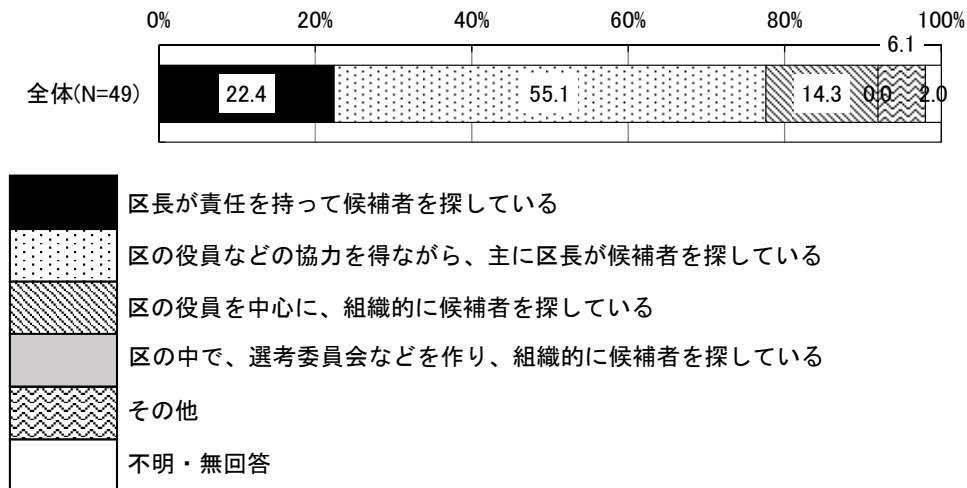
その他：

- 民生委員の立場が明確でない。民生委員が不足しているのであれば、増員すればよい。
- 健康体操リーダー養成と支援（区からの補助金支給）を実施中。

- 区役員、民生委員、老人クラブ、公民館、PTA と連携している。
- 老人クラブに担当役員がいる。
- 福祉委員を 6 人置き、民生委員・児童委員と協力して活動している。
- 組長が月 2 回広報紙等を配布する際、ひと声かけて安否確認し民生委員・児童委員をサポートしている。

③ 区での民生委員候補者選出の方法をお教えてください。(ひとつだけ○)

<単数回答>

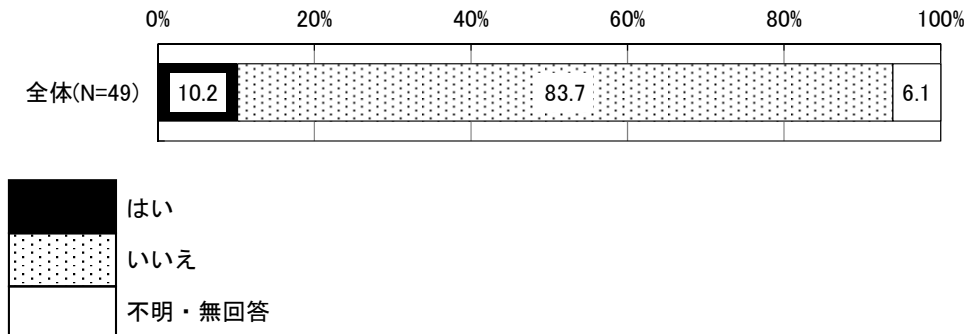


その他：

- 区長に依頼がきているので、最終的には区長が責任を持って探している。区長になって間もなく、推薦依頼がきたが、地元出身でもなく、顔も広くなく、区の役員を中心に、候補者を探してもらった。民生委員の資質、人格、教養など、考慮すべきと思うが、最近は「誰でもよい」という感じではないか。
- 区の役員、現在の民生委員・児童委員を中心に探している。25 年度は、区内回覧板をまわした。1 名が民生委員・児童委員として地域貢献したいと申し出があった。
- 留任されたので助かったが、後任選出は困難が予想される。
- 区長が何でも候補者を探さなくてはならないから、非常に大変です。

④ 民生委員候補者の選出にあたって、区のなかで、候補者選出のための何らかの仕組みや工夫はありますか。(ひとつだけ○)

＜単数回答＞



「1 はい」に○をつけた方におたずねします。区の民生委員選出の仕組みや工夫についてご記入ください。

- 民生委員を出す隣組が決まっている。
- これはという人を何人か訪問するのみ。
- ふれあいネットワーク活動「推進委員」を育成し、次期民生委員候補にしたい主旨で「推進委員」を決めている。
- 人物、年齢、家族環境、さらに、車の運転等を吟味、健康面も。
- 先生のOB、または人格者。
- 民生委員の意見を聞き、家庭訪問をお願いしている。
- 何でも区長で困っている。
- 民生委員の選出には苦勞しています。
- 候補者選考基準に合致する対象者を役員で調査し、リストを作成の上、集中的にアプローチする仕組みで対応している。選考基準①55歳～60歳代、②無職で目下フリーの人、③車の運転ができる人、④少しでもパソコンができる人。

⑤ 福祉の問題に対して地域で行う支援活動の充実を図っていくため、改善していくことが望ましいことや、具体的な取り組みについてのアイデアなどがございましたら、自由にお書きください。

- 民生委員の仕事が本来どんなものであるのか分からないが、見守りとか、訪問活動に力を注いでもらいたい（サロン活動、交流活動の名目で「おもてなし」接待が目立ってきている）。区の行事で民生委員を呼びもしないで、勝手に参加して「小言」まで言っていくような状況である。
- 民生委員にもっと報酬を出してください。あまりにも少なく、その上使い方がひどいと思う。いくらボランティアとはいえ、考えてください。
- デイケアサービス等の施設をもっと増やしてほしい。

- 高齢化が進み、家に引きこもりの人が多くなってきたように思います。家族構成も同居が少なく、核家族になり、ひとり暮らしの方も多くなってきています。近所の人たちと何らかの形で連絡を取り合っているように改善していただきたい。公民館（地区）等で、高齢者向けの体操や、たまには、おしゃべり会等の催しもあっていいのではと思います。
- 福祉について皆さん関心が薄いように見受けられるので、もっと福祉について啓発活動を行うべきと思う。
- 民生委員をサポートする協力者が得られず、苦慮している。
- 市内 60 行政区で健康体操を導入している区は 17 区と聞いています。私の区では 7 万円の補助金を出して積極的に支援している。会員も約 70 名おり、通常の活動に 30～40 名参加しています。健康体操への市の補助金も出すようなことも検討したらよいと思います。市民が健康であれば国民健康保険料等の負担軽減になるかと思います。
- 福祉活動既存団体の充実を図るために、子ども会育成会、地区委員（PTA）老人クラブ等も活動体に入れたら、目的は情報の共有化と幅広く細やかな活動が展開されると思います。
- 市の福祉課は民生委員の選出時に種々言ってくるが、その後の具体的なフォロー等の姿が見えてこない。
- 当区では、全組織がその組織に見合った活動をしており、その量は活発である。これは、農村部の古い文化を継承してきたことが大きく、行政では従来の慣行と逆行しているところがある。特に右岸と左岸では根本的に生活体系が異なるので、一律の規範を定めることは困難であり、行政自体がさらに柔軟な考え方をした方がよい。
- 民生委員の負担を軽減させるために、「福祉ボランティア」の登録制度を導入し、75 歳以上の高齢独居者の安否確認や災害時の救助体制等、1～2 名の担当を振り分けるシステムを構築する。たとえば、市職員、職員 OB、区長経験者、公務員 OB 等、希望者を公募し、民生委員と協議しながらリストアップし、動向を記録していく。
- 去年は当区の取り組みで、バスハイク＋食事会を企画したが、好評で、2 回目はバス 2 台の参加者となった。26 年度は「してあげる」を 1 回、対象者が「お返しに取り組む」社会参加型の企画を考えている。
- 話す場を数多く設ける（食事会、見学等）。
- 福祉関係については、主に民生委員が親身な活動を展開しております。
- 毎月 2 回の広報配布時に見守り対象者への手渡し、状況の異変の報告等をお願いして地区としては行き届いていると自負しておりますが、認知症が出た人への対応での問い合わせが多く、的確な指導が難しく、認知症が進んでいる人にも人権があり、個々のプライドがあり、毎日の暮らしの見守り、声には耳を貸すしか（辛抱強く）なく、現在のところお願いしているところです。でもよく協力して下さり、助かっております。

小郡市地域福祉計画に対するご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

- 敬老会の折、1年間国民健康保険にお世話にならなかった方2人を表彰し、表彰状のみならず、品物を送りました。小郡市全体で「健康寿命を上げる」「国民健康保険をできるだけ使わない」、そういう運動、取り組みができないものか、他の市の活動も含め、研究することが重要だと思います。
- 私どもの地域では買い物に苦戦しております。地域にあったスーパーが撤退し、買い物もマックスバリュまで行くことになりました。自動車がある人は、なるべく誘い合わせて行っている人もいますが、皆さん高齢でなかなか大変みたいです。何らかの形で市の行政も考案してもらいたいと思います。
- 市営の老人ホームが設置（建設）されて、低料金にて入所できることが望ましい。
- 市からの補助金を増やしてほしい。
- アンケートの結果で参考となること等があれば、教示願いたい。
- すべての福祉を行政が負担することは無理だと思います。今の時代、自己責任を持たせることが大切です。そうしないと日本はつぶれると思います。何でもかんでも行政が行う時代は終わったと思います。お金は効果のある使い方をしないと意味がないと思います。
- サロンのではなく、高齢化対策を考えるべきではないか、元気高齢者を対象にする必要はない。
- 地域で対象者に対する支援活動にはやはりひとつの限界もあります。人を動かし、対象者の要望を満たすには活動費は不可欠です。財源は区からの助成や社協のふれあいネットワーク助成金のみです。福祉活動の活発化を図るのであれば、福祉活動費があつてしかるべきと思います。民生委員・児童委員、ボランティア等、社会福祉活動意識の低下があり、これらの問題に対する啓発対策を願いたい。
- 当市でもきめ細かく多様な活動があるが、行政のコストも負担が大きく、これに携わる行政区の人々も荷重感があるように思われる。
- 当区は65歳以上が45%で、2人にひとりが高齢者なので、隣組崩壊などの自治活動のひずみが顕著になっている。従来からの経験則の積み上げ対策ではやっていけない時にきているように思う。高齢者対策を含め、発想の転換が求められていると思う。
- 小郡市役所の総務課または協働推進課からのデータ（人数等）と福祉課から出るデータが一致していない。
- 現在、高年齢の人たちの収入が少ない方の今後の老後の生活に、不安を覚えている。入所の基準を作成し、生月園のような特別養護老人ホームをつくっていく必要性を重視している。早く取り組んでいただきたい。
- 敬老会依託金の額を上げてほしい。福祉の車をもう1台確保してほしい。
- 地域福祉計画に対しては行政も地域も考えていることは同意だと思うし、より一層タイアップして住みよいまちづくりに向け前進したいものと思っております。
- 行政でも個人（認知症）の人権尊重で許可なく踏み込んでまで、対処法ができないものを区長でもできません。これが情けない思いをすることが多く、隣近所の人に見守り、声かけをお願いし、迷惑をかけています。無縁死だけはこの地区から出すまい、と念じて頑張っています。